

事務事業名 筑紫地区救急医療対策事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：335

施策：	09	健康づくりの推進	財務コード	01040101-02-281
基本事業：	03	健康を支える環境の整備	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	健康づくりサポーターの年間活動回数 健康づくりサポーター（食生活）の充足率 健康づくりサポーター（運動）の充足率 救急医療で対応している科目数		担当課	健康推進課
			担当係	健康企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫地区住民等			運営主体 筑紫地区5市 受託機関 一般社団法人筑紫医師会 「病院群輪番制」 事業開始年月 S54年度から筑紫地区5市合同で開始 実施時間 (1)日曜、祝日、8月13～15日、年末年始の9時～17時まで (2)休日、平日の17時から翌9時まで 実施内容 救急を要する患者で病（医）院での診療 (1)休日の昼間（在宅当番医制）...内科、外科（各2箇所）、産婦人科（1箇所） (2)休日及び平日夜間（病院群輪番制：筑紫管内9病院）...内科、外科（2箇所） 「小児救急」 事業開始年月日 H16.10.1から筑紫地区5市合同で開始。 実施時間 (1)休日、年末年始 9時～21時30分（受付終了21時） (2)月～土曜 17時～21時30分（受付終了21時） 診療実施日 月、水、金曜 ...福大筑紫病院						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			「病院群輪番制」...住民の救急医療を確保するため、筑紫地区5市と筑紫医師会に属する病（医）院が一体となって、救急医療体制を整備する。 「小児救急」...休日及び夜間における小児救急診療を確保するため、福岡大学筑紫病院と福岡徳洲会病院が輪番により、小児救急医療体制をとっている。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
			実績	実績	当初	要求	計画	計画	
病院群輪番制受診者数（筑紫地区住民）		人	23,482	27,079	33,000	33,000			
小児救急受診者数（筑紫地区住民）		人	5,037	6,923	15,000	15,000			
5. コスト									
事業費		計	千円	20,438	20,423	20,757	20,861		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円	1,812	1,825	1,812	1,825		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他	千円		0	0	0		
一般		千円	18,626	18,598	18,945	19,036			
正職員人工数		人工	0.3	0.2	0.3	0.3			
正職員人件費		千円	2,376	1,546	2,345				
トータルコスト（事業費＋正職員人件費）		千円	22,814	21,969	23,102	20,861			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<現状> 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度・3年度は受診者数が減少していたが、感染状況の収まりとともに令和4年度から増加した。 <課題> 令和2年4月1日より、小児科医の減少、医師の働き方改革により、小児救急は1.5時間の診療時間短縮となった。コンビニ受診による増加が懸念されており、医師の負担を軽減するため、適切な診療が求められている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性			維持	見直し	廃止	事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
備考・特記事項 or 進行管理欄			筑紫地区救急医療対策事業は昭和54年度から、小児救急医療対策事業は平成16年度から筑紫地区5市共同で開始した事業である。						